

板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

1 受付場所別の内訳

※ () は、総件数から同一障がい者に係る通報等の重複分を除いた実件数

| 受付場所 | 令和元年度 | 令和 2 年度 |
|-------------------|-------------|-----------|
| 虐待防止センター | 1 8 (1 8) | 9 (9) |
| 福祉事務所 (3 ケ所) | 1 3 (1 3) | 1 (1) |
| 健康福祉センター (5 ケ所) | 4 (4) | 0 (0) |
| 障がい者福祉課/障がい政策課 | 1 3 (1 3) | 7 (7) |
| 予防対策課 | 0 (0) | 0 (0) |
| その他 (警察等) | 2 (2) | 3 (3) |
| 合 計 | 5 0 (5 0) | 2 0 (0) |

2 相談・通報・届出者の内訳

| 相談・通報・届出者 | 令和元年度 | 令和 2 年度 |
|-----------------|-------|---------|
| 障がい者本人 | 1 4 | 6 |
| 家族・親族 | 5 | 2 |
| 近隣住民・知人 | 3 | 0 |
| 福祉サービス関係者 | 1 7 | 8 |
| 医療関係者 | 0 | 1 |
| 行政・教育機関 | 9 | 0 |
| その他 (警察) ・不明等 | 2 | 3 |
| 合 計 | 5 0 | 2 0 |

3 被虐待者の障がい別内訳

※ 通報時本人より申告のあった種別 (重複障がいは、それぞれに計上)

| 障がい | 身体 | | 知的 | | 精神(発達含) | | 不明 | |
|-----|----|----|----|----|---------|----|----|----|
| 年度 | R1 | R2 | R1 | R2 | R1 | R2 | R1 | R2 |
| 人数 | 10 | 4 | 30 | 7 | 13 | 9 | 3 | 0 |

4 虐待者の内訳

※ () は、総件数から同一障がい者に係る通報等の重複分を除いた実件数

| 虐待者 | 令和元年度 | | 令和 2 年度 | |
|-----------------|--------------|------------|--------------|------------|
| | 総件数 (実件数) | 虐待認定 件数 | 総件数 (実件数) | 虐待認定 件数 |
| 養護者 | 2 7 (2 7) | 5 | 9 (9) | 1 |
| 障害者福祉 施設従事者等 | 2 0 (2 0) | 3 | 1 0 (1 0) | 0 |
| 使用者 | 3 (3) | 0 | 1 (1) | 1 |
| 合 計 | 5 0 (5 0) | 8 | 2 0 (2 0) | 2 |

※令和 2 年度については 8 月 15 日時点の件数となります。

5 虐待の事実が認められた事案（令和元年度）

| NO | 種別 | | 被虐待者の年代 | 主 な 虐 待 内 容 | 状況・対応等 |
|----|-------------|-------|---------|--|--|
| 1 | 養護者 | 身体的虐待 | 20代 | 障がい者の兄に対して、同居している弟が火傷を負わせた。 | 緊急保護として、兄を短期入所施設へ入所させた。また、弟の精神状態が不安定であったため、メンタルクリニックの受診を案内した。 |
| 2 | 養護者 | 身体的虐待 | 30代 | 障がい者の娘に対して、同居している母が暴力をふるった。 | 娘の世話に伴う養護者への負担が過重と判断したため、レスパイトをさせるべく短期入所等のサービスを案内、利用してもらっている。 |
| 3 | 養護者 | 身体的虐待 | 20代 | 単身の障がい者の方が、知人宅にて生活していたが、知人に暴力をふるわれていた。 | 緊急保護として、他県在住の家族に保護してもらった。 |
| 4 | 養護者 | 身体的虐待 | 20代 | 障がい者の姉に対して、同居している弟が暴力をふるった。 | 緊急保護として、姉を短期入所施設へ入所させた。家庭環境が原因の可能性があるため、生活の相談ができる場所を案内した。 |
| 5 | 養護者 | 身体的虐待 | 10代 | 障がい者の息子に対して、母が暴力ふるった。 | 被虐待者は週末のみ自宅に帰る生活していたが、被虐待者の安全を確保すべく母の精神状態が改善されるまでは、自宅に帰さないこととした。また、母に対しては健康福祉センターの保健師と面談を案内した。 |
| 6 | 障害者福祉施設従事者等 | 身体的虐待 | 10代 | 日中活動を行う事業所において、精神的に不安定になり暴れていた利用者に対して、支援員が手足をガムテープで固定した。 | 事業所に再発防止策を記載した改善報告書の提出を求めた。 |
| 7 | 障害者福祉施設従事者等 | 性的虐待 | 20代 | 日中活動を行う事業所において、支援員が利用者の身体に触れた。 | 事業所に再発防止策を記載した改善報告書の提出を求めた。 |
| 8 | 障害者福祉施設従事者等 | 心理的虐待 | 40代 | 療養介護事業所にて入所している利用者に対して、担当看護師が不満をぶつける発言をした。 | 事業所側の対応として、当該看護師に指導を行ったほか、利用者の担当看護師を変えた。 |

6 虐待の事実が認められた事実（令和2年度8月15日現在）

| NO | 種別 | | 被虐待者の年代 | 主 な 虐 待 内 容 | 状況・対応等 |
|----|-----|-------|---------|---|---|
| 1 | 養護者 | 身体的虐待 | 30代 | 行動障がいがある娘に対して、同居している母が介護中に太腿を叩いて痣を負わせた。 | 母の年齢、健康状況から、娘の介助が困難となってきたと判断し、在宅生活の支援体制を見直し、あわせて施設入所の申し込み手続きを行った。 |
| 2 | 使用者 | 経済的虐待 | 40代 | 民間企業にて正社員として雇用されていたが、最低賃金未満の給与を支払われていた。 | 東京都労働局にて対応。是正されている。 |

※ 現在対応中の案件は含まれておりません。